

令和7年度小松市立木場小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>児童の主体性を育むための積極的な生徒指導</p> <p>・教職員の日常的な児童の情報交換はもちろん、年2回の木場つ子アンケートを基に、担任と児童が面談する場を設定し、問題行動等の早期発見・未然防止を図り、より深い児童理解を行う。</p> <p>・児童会の活動にむかひもたせた上で、児童のアイデアを中心に様々な活動を計画・実施、振り返りをする中で、児童の主体性や自主性を育む。</p>	<p>・普段の職員室での児童の情報共有だけでなく、定期的な児童理解の実施をでき、問題行動等の早期発見・未然防止を図ることができた。また、1回目の木場つ子アンケートをもとに、担任が自分のクラスの児童と面談を行った。児童のアンケート結果だけでなく、児童への事後指導や保護者への対応等を含め、全教職員と情報共有できた。</p> <p>・「木場つ子みんなで安心・安全で楽しい学校にしよう。」の児童会目標のもと、各委員会や評議員会を中心に様々な取組を行っている。運営委員会では、楽しい学校にするにはどうしたらよいかを、「かんたんな遊び運動」を題し、全校児童でおいごことやドッジボールを計画・実施した。この取組運動を親しみながら異学年で交流を図ることができた。遊ぶ時間や対戦するチーム編成で反省点が出たが、この振り返りを大切に今後さらに良い取組ができるようにしていく。また、小学生サミットの取組も児童の主体性を意識したものでよい。</p>	<p>・定期的な児童理解の会の実施や木場つ子アンケートをもとにした全校児童への聞き取りをするなどにも、全職員で情報共有することで、組織的で、積極的な生徒指導が行えている。また、対応が難しいケースでは、チームとして、複数の教職員が協力して問題解決に向け、取り組もう。</p> <p>・「木場つ子みんなで安心・安全で楽しい学校にしよう。」の児童会目標のもと、各委員会では、「全校名前ビンゴ」や「手洗チェック」、「図書ビンゴ」、「インタビューズ」といった取組、「低学年集会」、「高学年集会」、「2年生クイズラリー」といった各学年の取組を、児童自らが主体的に推進していた。その結果、児童が「主体性や自主性をもった取組ができていたか」のアンケート結果では、約9割の児童が肯定的な回答となった。</p>
安全指導	<p>命を守る取組を推進し、児童の安全への意識を高める</p> <p>・計画的に避難訓練を行い、非常事態が起こった際の避難の仕方を児童と職員で共有する。</p> <p>・集団登下校訓練、交通安全教室などを行い、児童の交通ルールを守ろうとする意識を高める。</p> <p>・定期的な教員が校舎の安全点検を行うことで、事故の未然防止を防ぐ。</p>	<p>・避難訓練や集団登下校訓練、交通安全教室を計画的に実施し、児童と職員で命を守るために必要な避難の仕方を共有することができた。火災の避難訓練では、避難時の状況を具体的に想定し、非常口を使った避難を行った。また、警察や消防、交通連隊など、外部人材と協力して行うことで、より実践的な訓練ができた。</p> <p>・2学期も、避難訓練を行う予定である。今後は、教職員および児童が、あらゆる場面で危機変化に対応できるような実践的な訓練をおよび実施していく。</p> <p>・交通指導については、集団登下校訓練や交通安全教室に限らず日常的な指導を行うことで、ルールを守ろうとする意識の継続と向上を図る。</p> <p>・定期的な職員が校舎の安全点検を行い、事故の未然防止に努めている。災害等の際には各点検場所の確認を行うようにしている。</p>	<p>・授業中および休校中の火災や、不審者侵入、地震発生など、状況に応じた行動ができた。火災発生時の逃げ方を指導する仕方を児童と職員で共有することができた。また、昨年度より引き続き今年度も非常口を使った訓練を行うことで、非常口の場所と具体的な使用方法の確認ができた。様々な状況下での避難訓練を計画的に実施し、外部人材を生かして実践的な訓練を行うことができた。</p> <p>・交通指導に関しては、集団登下校訓練や交通安全教室の順に加え、学習活動や実地体験の取組など、常に熱心な指導を行うことで、交通ルールを守ろうとする意識の継続と向上に努めた。</p> <p>・熊の目撃情報があったときなど、実際に集団下校が必要となった場面もあったが、児童、教職員とも訓練を生かし緊張感をもって行動できた。</p> <p>・2か月1回程度、教職員が校舎の安全点検を行い、事故の未然防止に努めることができた。</p>
特別支援教育	<p>児童一人ひとりの発達課題に応じた教育支援体制の充実</p> <p>・支援を必要とする児童について、発達の課題を把握し情報共有するため個別の支援シートを作成する。</p> <p>・校内委員会を適宜開催し、児童理解の会などで教職員全員で共有した支援方法で支援にあたる。</p> <p>・外部機関との連携を図り、必要な時は専門相談員などを招聘して児童の特性や効果的な支援方法などについて助言を受ける。</p>	<p>・発達に課題を抱える児童について個別の支援シートを作成し、校内委員会を開いて情報共有したうえで支援方法について協議することができた。</p> <p>・外部機関と連携し、専門相談員を招聘して気になる児童の取組を行い、児童の特性を把握するとともに有効な支援方法について理解することができた。</p> <p>・学校から外部機関に要請する以外に、保護者から市の教育センターに相談した内容についても児童理解の会で共有することができた。教職員の一一致した支援につなげたい。</p>	<p>・個別の支援シートを学期ごとに作成して特別支援校内委員会が情報共有し、有効な支援体制を構築することができた。</p> <p>・学校生活や学習面を課題を抱える児童について見取りを行い、専門相談につなげることで、児童の特性について専門的な視点からの分析を受け、児童支援に生かすことができた。</p> <p>・登校しづらい児童について、学校から市教育センターに保護者をつなぎ、家庭での様子についてアドバイスをいただいた。センターと保護者・担任と情報共有して対応にあたることができた。</p>
道徳教育	<p>道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る</p> <p>・定期的な道徳の授業づくり等の情報を発信・共有することで教員の道徳教育の充実を図る。</p> <p>・重点的な取組を他教科や活動と関連付けられるよう、カリキュラムマップを意識した道徳教育の推進を図る。</p> <p>・家庭、地域と連携した道徳を推進していくために年に1回授業参観で道徳の授業を公開する。</p>	<p>・1学期中に3回、道徳通信を教職員向けに発行した。通信を通して、授業づくりのポイントや評価の仕方を共有することができた。また、「未来へつむぐ家族の手紙」と関連させた授業の展開を紹介することで外部の取組を生かした道徳の授業づくりについても広く伝えることができた。</p> <p>・カリキュラムマップを活用することで、重点項目について他教科と関連付け、教科横断的な道徳教育を行うことができた。</p> <p>・4月の授業参観で道徳の授業を行い、学校で行われている道徳教育を家庭や地域に公開する。また今年度ではないので、まだの学年には声かけをしていく。</p>	<p>・研究科の道徳の授業を参観し、授業の構想や発問の仕方、ICTの活用方法などを研修報告の場で、全教職員に共有することができた。</p> <p>・全学年がカリキュラムマップに従い、重点項目を他教科と関連付けて道徳教育を行うことができたので、次年度も他教科の学習と関連付け、教科横断的な道徳教育を行っていく。</p>
情報教育	<p>ICT端末の効果的な活用を図る</p> <p>・ICT端末の効果的な活用を模索し、職員間での情報の共有を図るための研修を充実させる。</p> <p>・児童がICT端末を日常的に使えるような環境整備を行い、学年の実態に応じた情報活用スキル習得を図る。</p> <p>・情報モラル教育の職員研修やデジタルコンテンツを充実させ、児童への確かな情報モラルの習得を図る。</p>	<p>・今年度もGIGA研修の時間を職員会議後に設定し、職員のスキルアップに取り組みを図る。また、今年度は情報担当からの情報発信だけでなく、職員間で研修方法の情報共有も行う。</p> <p>・昨年度整備したクラスサートの更新を随時行い、職員、児童共に使いやすい環境整備に取り組んでいく。</p> <p>・デジタルコンテンツにあたるGIGAワークブックにしかわもクラスサートから前編にアクセスできるように、児童の実態に応じた情報モラル習得できる環境を整備し、定期的な指導にあたる。</p> <p>・職員のICT活用に関する相談を受け付けやすい窓口をネットワーク上に設け、タイムリーに対応できるようにし、校内DXを推進する。</p>	<p>・教職員の稼働効率化および児童への指導力向上を目指し、内容を精選した「GIGA研修」を継続的に実施した。各担任による授業での活用事例は「GIGAワークブック」としてシートに集約・蓄積・共有して活用することができた。</p> <p>・職員、児童ともに使用する教材がGoogleに変わってからは、クラスサートを中心にスムーズに移行することができた。各種サートへのアクセス性を高める工夫により、教職員の稼働効率が向上した。</p> <p>・児童が学習を促すために活用する場面が大幅に増加した。</p> <p>・情報モラル研修に対して、児童が学年のクラスサートでアクセスできるようにし、児童の発達段階に合わせて取り組めるようにしている。また、情報セキュリティ研修を適宜実施し、情報モラル習得を図る。</p> <p>・ICT活用研修に対しては、オンライン窓の設置により、職員間で日常的な声かけができた。デジタルと対面の双方を活用して、オンライン窓の活用により、学校全体でDXを推進することができた。</p>
読書教育	<p>図書室の充実を図り、児童の読書意欲を高める</p> <p>・年間計画をもとに図書室を利用したり、教科にあった本や「本のとびら」の貸出しを行ったりすることで、児童の読書の幅を広げる。</p> <p>・図書委員が主体となり、計画的なイベントを行うことで、図書室利用の促進を図りさまざまな本をよき広げたい。</p> <p>・図書ボランティアと連携し、より豊かな読書体験の機会を与える。</p>	<p>・4月の図書オリエンテーションをはじめとし、年間計画を基に図書室の利用を推進してきた。また、主に国語科を中心に並行読書や参観資料として図書の利用を行うことができた。より「本のとびら」の貸し出しが年間計画より、担任に呼びかけていく。</p> <p>・図書委員会のイベント「図書つどろく」について、委員会の児童が主体的に企画・運営することができた。しかし、ループが分岐が少なく、取組は学年で差が出てしまった。後期は月次や学年に1回開催イベントを企画・運営していく。</p> <p>・図書ボランティアと連携し、読書会や読書会を計画的に行うことができた。読書会を開催することで図書室の幅を広げたり、行事や季節に合わせた本で季節を感じることができた。</p>	<p>・毎週金曜日隔週で、「本の部屋」「本のとびら」を設け時間として設定した。学年や児童によっては冊数に差が見られたが、読む機会を確保することができたのはよかった。来年度も、年度初めの図書のオリエンテーションを活用し、読書の幅を広げるよきや楽しさを児童へ伝えられるようにする。</p> <p>・図書委員会のイベント「図書つどろく」では、前期の反省を生かし児童にわかりやすい取り組み方を紹介することができた。イベント期間の貸出し冊数は、他月と比べて大きく伸びた。今後も、本校の読書教育の課題に合ったイベントを児童中心に行っていく。</p> <p>・図書ボランティアの読み聞かせでは、全学年で行うことができた。さまざまな種類の本に親しむことができ、また、学年や時期に合わせて読み聞かせを行うことができた。</p>
保健健康教育	<p>自己の健康と安全（命）を管理する能力の育成</p> <p>・「睡眠と食育について各学年1回ずつ以上学習し、「生活チェックカード」の取り組みにつなげられるようにする。</p> <p>・「生命（いのち）の安全教育」に関連付け、性に関する指導を各学年1回以上行う。</p> <p>・学校保健委員会を開催し、家庭と学校の連携を高めていく。</p>	<p>・1、3年で食育授業を行うことができた。2学期以降も各学年、計画的に睡眠学習と食育を進める。</p> <p>・「生命（いのち）の安全教育」を各学年で行うことができたので、今後は性に関する指導を学習計画に沿って実施できるようにする。</p> <p>・また、学校保健委員会に向けて「電子機器と眼との関係」に関する保護者アンケートを実施した。今後、集計分析を行い学校公開日に発表することで、様々なメディアとの付き合い方について保護者が関心を持ち、メディアに触れる時間や内容について話し合う機会を作り、適正な使用が広がることにつなげたい。</p>	<p>・各学年で計画的に睡眠学習と食育学習を実施することができた。来年度も継続して行っていく。</p> <p>・性に関する指導は教科や学校行事等と関連させ、適宜指導を行うことができた。</p> <p>・学校保健委員会では、友会教育委員が「電子機器の子どもへの影響」についてアンケート結果と分析を発表した。また、児童健康委員会は「親子のホットネット大作戦」の結果を発表し、わが家のルール作りのポイントや決めたルールを守るなどの大切さについて発表した。保護者と児童が同じテーマについて考える時間を設けることができ、よい機会となった。</p>
体力向上	<p>年間を通した体力向上の取組の推進</p> <p>・体力アップ1枚1プランをもとに児童の健康安全に資する活動を行い、児童の体力向上に努める。</p> <p>・「木場つ子トレーニング」として短時間でできる体幹トレーニングを継続的にを行い、児童の姿勢維持や体力、集中力の向上を図る。</p> <p>・各学年に「スポチャレいしかわ」の強化週間を設け、意欲を高めるとともに、運動習慣の定着や体力向上を図る。</p> <p>・体力テストや持久走大会へ向けた練習等において、全校共通の学習カードを活用して取り組み状況を明確にし、成果が見える形にする。</p>	<p>・健康委員会による木場つ子トレーニングのお手本動画を見ながら、全校で木場つ子トレーニングを継続的に行った。また、児童アンケートで体幹力向上に目的を持って取り組んだと回答した児童の割合は94.9%であった。児童個々人がそれぞれ目的をもって取り組んだことがわかる。5月に行った体幹力チェックでは達成率が79%であった。前年度50%（65%）に比べて高まっているので、取組を継続して達成率の向上を図る。</p> <p>・1学期では、6月にスポチャレいしかわのシャトルボールの強化週間を設け、取組の推進を行った。取組結果の記録の提示を行い、記録の更新の取組目標が分かるようにすることで、児童の意欲の向上を図った。学年によって取り組みに差がみられたので、目標を定着する学期には強化週間前に健康委員会から呼びかけを行い、取組の幅を広くすうようにした。</p> <p>・体力テストに向けて、前年度の個々の記録や、県の平均などを記載した学習カードを用意した。前年度の自分の記録や県の平均記録と比較ができるので、児童が今年の目標を設定しやすくなり取組意欲の向上につながった。2学期に行う持久走大会でも、同様の学習カードを活用して児童の記録向上への意識付けを行い、持久力の伸長につなげたい。</p>	<p>・健康委員会による木場つ子トレーニングのお手本動画を活用し、意欲が継続できるようにした。児童アンケートでは、93.4%の児童が目的をもって取り組んだと回答しており、肯定的な意見の割合が高く、年間を通して全校一丸となり取り組むことができた。10月に行った体幹力チェックでは、達成率が84%と3月に比べて向上し、取組の効果が感じられる結果であった。今後もトレーニングのねいを明確にして体幹力向上に努めていく。</p> <p>・2学期も11月にスポチャレ強化週間を設け、方向転換走（新種目）や40mや1学期に引き続きシャトルボールに取組んだ。強化週間を設けることで全学年がスポチャレいしかわに取組むことができ、体力の向上を図ることができた。</p> <p>・持久走大会では、学習カードを活用し、自分の目標をもって練習に取り組むことができた。カードに記録の過程を記録することで、本番の結果だけでなく、それまでの頑張りを確認することにつながった。</p>
地域・家庭連携	<p>地域・家庭に開かれた学校づくり</p> <p>・地域の環境や人材を活用した学習活動の実践を推進し、深まりや広がりのある学校教育活動を実施する。</p> <p>・地域・家庭と連携し、学校教育（学習・安全・健康）に協力体制を構築する。特に家庭とは児童の学習活動への理解と協力が深まるような取組を工夫する。</p> <p>・HP、通信などで地域・家庭に教育活動の情報発信をていねいに行う。</p>	<p>今年度より学校園において「県の農業農村体験事業」の助成金を利用して、地域の農家さんの協力のもと野菜等の収穫体験を進める。また、昨年度の引き続き星の城プロジェクトや地域の稲作農家などのゲストファーマーの協力も得ながら内容や時間などの精選を行い進めることができた。保護者アンケートでも「学校は、お便り、メール、ホームページ等で情報提供に努めている。」98.3%と「学校は、お便り、メール、ホームページ等で情報提供に努めている。」96.0%と、地域家庭連携という点では、肯定的に受け止められている。さらに、児童の実体験による価値のある活動を推進していく。</p>	<p>昨年度まで十分に果たらなかった学校園でのサマタイム栽培では、「農業農村事業」による地域の農家さんの協力のおかげで、児童が満足する収穫にこぎつけることができた。また、星の城プロジェクトや地域の稲作農家などの協力もとの学習活動は、木場小学校の特色といえるほど定着し、児童も地域理解や深い学習にたがっている。保護者アンケートでもほぼ100%が肯定的な回答となっている。また、「学校は、お便り、メール、ホームページ等で情報提供に努めている。」98.2%と「家庭にも必要な連携ができていて」と考えられる。さらなる効果的な連絡連携を推進していく。</p>
学校関係者評価	<p>（中間評価に対して 前期学校関係者評価委員会より）</p> <p>・低学年集会など、段階を見てリーダー意識が持てる取り組みがあり、高学年での気構えが、今の姿が見られている。</p> <p>・集会での感想を言わせる取り組みや授業中の自分の考えを表現する学習はコミュニケーション能力を養っている。生きる力なので、自分のことをしっかりと伝えられるたくましい子育ててほしい。</p> <p>・木場小の児童数の減少が学校へ行ったてのギャップを感じるに心配である。競争力も大切なので、前述のコミュニケーション能力を大切にしたい。</p> <p>・ICT機器は便利だが、字を書けなくなってしまうのは心配である。字をしっかりと丁寧に書く指導も大切にしたい。</p>		